

教育後援会だより

平成6年12月1日

第2号

発行/明海大学浦安キャンパス教育後援会

〒279 千葉県浦安市明海8
電話 0473-55-5112

建学の精神の具現に向けて



創立者・理事長 宮田慶三郎

春うららかな心地よい四月のある日、入学式に参列されたあるご父兄から一通の手紙を頂戴いたしました。それには、入学式と学歌「よろこび」に非常に感銘を受け、素晴らしい大学に息子を入学させることができたとの内容が記されておりました。このような手紙を頂戴いたしましたことは、本学創立者として、また学歌の作詞者の私にとってこの上ない喜びでした。しかし、私自身がここで満足している訳にはいきません。

本学の建学の精神は、変転きわまりなく世界の諸事情に対応できる普遍の知識をもった人材の育成が目的です。そして世界的視野に立って教育の拡充を図り、そのような知的財産を二十一世紀に継承させる意図に教職員全員が燃えております。

浦安キャンパスは歴史も浅く、まだまだ成長過程にある学部です。卒業式のときに、学生、父兄の皆様、本当に明海大学に入学してよかったと思っ頂ける大学づくりに、私達は一層努力をしいかなければなりません。

これまで後援会より大学にいただいた多大なるご援助に心より感謝申し上げますとともに、そのご期待に添えるよう建学の精神の具現に情熱をもって努めていきたいと考えております。年明けとともに私も八十九歳となりますが、まだまだ皆様とともに、大学の発展を見守りたいものです。

またこの紙上で皆様とお逢いできるのを楽しみにしております。

副会長挨拶

丹下 剛

秋も一段と深まってまいりましたが、教育後援会の皆様におかれましてはご健勝のことと拝察し、一言ご挨拶申し上げます。私は今年度より白石会長のもとで、副会長就任の命を受けまして、改めて後援会の存在の意味を強く自覚し、明海大学への特別な想いも次第に色濃く鮮明になりつつあるのを日々実感致しております。常日頃役員会の席でお聞きする会長のお言葉からも「教育後援会は学生のためにある」ことをさらに深く認識して、大学との懇談、後援会の運営そして同窓会の育成にも一層努力致して参りたいと存じます。後援会も七年目に入り、学生用施設の充実、住居問題、奨学金制度の運用の他、留学生の支援など多くの課題に直面しています。皆様の忌憚ないご意見をお寄せくだされば幸甚に存じます。

副会長挨拶

貝原 和年

晩秋の候、会員の皆様お元氣でお過ごしのことと存じます。私は、大学近住とのことで役員に選任され、早三年が経ち、この間教育後援会の育成に、歴代会長役員の方および大学関係者のご努力されている姿に大変感動と感謝を感じ、微力ながらお手伝いしている現状です。

後援会の会員も年々増加し、地域も国内全域および外国にまで広がる中で、父兄の立場から学生諸君がより充実した有意義な大学生を送ることができるとの支援を考えますと増々後援会の発展が必要だと感じる次第です。この後援会が大学と父兄、学生との強い交流の場となりますよう、会員各位のご意見ご指導を心よりお待ちしております。

会長を支援して少しでも想いが達成できますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

国際交流サマーセッション開催される

明海大学に在学する外国人留学生、日本人学生、教職員および父兄との交流の場を通じて、相互理解を深めるとともに、国際交流事業のいっそうの充実を図ることを目的として、九月四日から六日まで静岡県天城湯ヶ島町の「天城山荘」を主会場として第一回の国際交流サマーセッションが開催されました。大束学長をはじめ八十八名が参加し熱心な意見交換が行われました。教育後援会からは地元の山口評議員にご多忙の中を出席していただきました。なお、分科会の討議内容および参加者の感想は次のとおりです。

分科会討議内容および参加者感想

講義について

- ・ 大学での講義が有意義であり、視野が広がっている。
- ・ 日本語力を向上させたいので三・四年次でも日本語の講義を開講してほしい。

奨学金について

- ・ 大学独自の奨学金制度をつくってほしい。
- ・ アパートの大家さんが授業料減免の手続き書類をだすのを面倒がる。大学の施設等について
- ・ 外国人留学生受け入れ体制が未整備であり、国際交流に関する専門部署をつくってほしい。

・ 学生食堂が狭い。値段が高い。

・ 図書館が狭い。資料が少ない。自国の新聞がほしい。

外国人留学生と日本人学生の交流について

- ・ 外国人留学生と日本人学生の交流の機会が少ない。
- ・ 外国人留学生はアルバイトがあり、日本人学生と交流する時間がない。
- ・ 外国人留学生と日本人学生の交流のパーティーを毎月開催してほしい。
- ・ 寮・宿舎等について

・ 大学で寮をつくってほしい。外国人留学生と日本人学生は同室がいい。

・ アパートを借りる際の保証人になってくれる人がいない。

・ アパートの家賃が高くて複数で入居しても、契約上は一人で入居なので、奨学金の申請資格がない。

在留手続きについて

- ・ 入国管理局での手続きが大変難儀であった。
- ・ 大学が身元保証人（機関保証）になってほしい。

サマーセッションについて

- ・ 学内でこのようなセッションを開催してほしい。
- ・ サマーセッションの周知が不十分である。

その他

- ・ 日本で生活する上で、経済的に困窮している。
- ・ 外国人留学生ということでアルバイトを解雇された。
- ・ 色々な事を相談する人が少ない。

「参加者」

〔教員〕 大束学長、藤本学生部長、伊達国際交流委員長、ス波国際交流委員、樋口国際交流委員、趙 Young Fellow (計6名)

〔職員〕 足立事務局長、近江学生課長、山中企画広報課長補佐、川田学生課長補佐、田中学生課員、岩下学生課員、北原第二部事務課員 (計7名)

〔教育後援会〕 山口教育後援会評議員(一名)

(学生) 外国人留学生 (男子37名 女子21名) (計58名)

日本人学生 (男子12名 女子4名) (計16名)

「国際交流サマーセッション」に参加して

教育後援会の代表として、九月五日の分科会に参加をさせていただき、外国人留学生との意見交換は非常に参考になりました。

異文化の中での経済的な負担等大変

に苦勞をされ勉學に励んでいる様子を

伺い、また教授の方々も、留学生の意

見を真剣に聞き入れ対処している姿を

見ました時、大変心強く思いました。

現在東南アジアの経済の発展は目覚ま

しいものがあります。留学生と日本人

学生の交流によって、お互いに文化、

経済の架け橋の一翼を担えることを期

待いたします。



山口道昌

朝日大学(姉妹校)視察研修開催される

教育後援会は、姉妹校等教育機関の視察等を通じて、本学支援の参考とすることを目的として、今年度から姉妹校等見学研修会を実施することになりました。第一回目は本学との姉妹校である朝日大学で九月九日、十日の二日間に渡って開催されました。初めての研修となりましたが、朝日大学の手厚いご配慮により、とても意義あるものとなりました。

朝日大学研修旅行に参加して

丹下 剛

九月九、十日、岐阜県穂積町にある朝日大学への研修旅行に参加しました。大学事務局から四名、教育後援会幹事会メンバー十五名が早朝明海大学前をチャーターバスで出発、一路東名高速を時速百キロで走り午後三時にめざす朝日大学に到着、早速船越学長の歓迎のお言葉を受けた後、学生部長地代教授の講演「大学と学生生活」「変わる学生、変わらない大学？」を拝聴し、その後学内施設見学をし、記念撮影を済ませ、夕刻掛斐川河畔の宿に到着、やっとくつろいだ次第です。日暮れから鵜飼いを堪能しつつ、小舟の上で船越、地代両先生、事務局の方々とお話が弾み、有益なお話が深夜までつづき親交を深めることができました。極めて有意義な研修であったと思います。

朝日大学は明海大学に一年遅れて創設された、本学宮田理事長が兼務する同じ母体、性格の似た姉妹校であります。スポーツに優れ、団体優勝の経験が豊富というのも特色の一つです。学



内見学で目にとまったのはコンピュータを学生用に揃えた情報管理学科の壮観な実習室の充実ぶりです。法学部の模擬裁判の室もユニークであり、歯科の広い実習室も見事でした。講義室の講堂の机の上に終わったばかりの歯科学講義のレジメが残っていたので、私も同業の立場から興味深く拝見したところ教材としての充実した内容には感嘆した次第です。研修のハイライト、地代先生の特別講義は整理され示唆に富み心に残るお話で、感動の余韻がいつまでも残る内容でした。講義後、「朝



日大学には歯学部のみ教育後援会があり、全学規模のものがなく、むしろ明海大学の例を見本にしたい」という学生部長の見解がありました。メロを糧に講義を振り返りますと、「顔のある大学」を学生が求めていること、新しい大学では専門資格を学生がもめていること(青森公立大学は専門志向100%の大学のモデル校)、学生は能力主義的評価に慣れていること、すっかりした割り切り方をすること、大人になりたがらない子どもたちの気質があること(対立のプロセスを経ないと大人にはなれないが、このプロセスを経ない学生が多いこと)は家庭教育で親子の会話がなにかからではないか?という指摘、コミュニケーションの欠落とコンピュータ指令を待っているような態度を示す大卒新入社員時代の反面、不況社会にいち早く適応し、研修態度が一変する変わり身の早い学生像も現代の特徴であるとの指摘がありました。

充実する課外教育活動 学友会について

明海大学浦安キャンパス学友会 会長 中山 恵一

明海大学浦安キャンパス教育後援会のご協力のおかげで、我が明海大学浦安キャンパス学友会は、学生のための組織として活動内容も年々充実してきております。

今年度の新規事業として、入学式当日の四月九日に「新入生歓迎会」を実施致しました。この企画は、教育後援会からの援助により新入生に一日も早く明海大学での生活に親しんで欲しい、との目的で実施し、数多くの新入生が参加しました。

また、教育後援会から学友会、及び公認の課外活動団体に対する援助金により、各団体の活動も充実し、日々活動に励んでおります。

本年六月には「学友会学内環境向上委員会」を新設致しました。この委員会は、駐車場問題の早期解決、学生ホールにおけるタバコの煙の対策としての換気設備の新設、学食における喫煙マナー等、学生が快適に学生生活を送れるための環境作りを目指しております。また、本年九月二十九日より十月一日までの三日間に渡り、「第二回マナー向上キャンペーン」を実施しました。今回は、「マナーは社会全体の問題」という観点に立ち、浦安市役所や葛南警察署等関係者の協力を得て、昨年よりも規模を大きくして実施することができました。

来年二月には、明海大学で初めての旅行企画である「スキーツアー」を実施予定です。本学では学生同士の交流が、残念ながら希薄な状態です。学友会では、この事態を憂慮し、明海生同士の交流や、普段は接することが少ない大学の教職員の方々との交流の場になれば、と思いい現在企画中です。我々学友会は学生のためによりよい大学作りの一翼を担いたい、と考えております。

つきましては教育後援会のご指導とご援助をよろしくお願い致します。ありがとうございます。

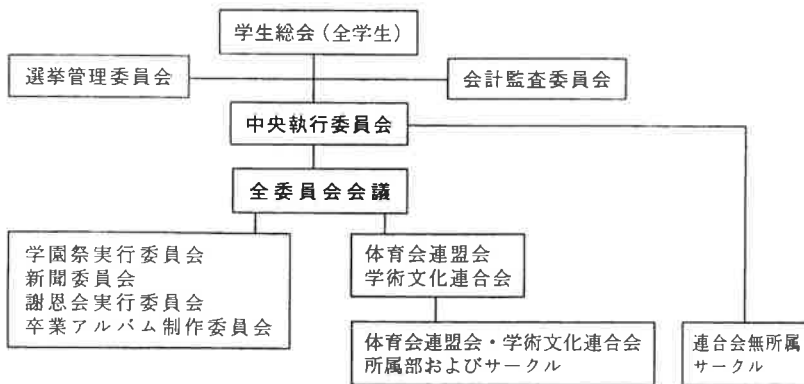
1. 学友会

学友会は1991年に会員相互の自主的活動により、学術文化、体育の向上を図り、併せて会員相互の人格の高揚を志向すると共に、本学の発展に資することを目的として設立されました。

学友会では、大学生活を有意義に過ごせるように、学生の要望を取り入れ、大学側に伝え、それを実現できるように努めています。

また、リーダーズ研修会・マナー向上キャンペーンやソフトボール大会などのイベントを企画・実施しています。

<学友会組織図>



一九九四年度マナー向上キャンペーンを主催して

学内環境向上委員会 副委員長 鈴木 剛

学友会では一九九三年から明海大学人としての社会生活におけるマナーの向上をはかる必要があるとの判断から全学的な「マナー向上キャンペーン」を実施しました。

今年度は九月二十九日から十月一日までの三日間に渡って「キャンペーン」を実施しました。今回のコンセプトは、本学のモットーである「地域に密着した開かれた大学」を念頭に置き、地域社会全体として「マナー」を改めて考え直そう、ということでした。

キャンペーンは学友会の「学内環境向上委員会」が中心となって展開されました。準備期間が短かったための不安はありましたが、期間中は、心配した天候の崩れもなく、成功裏に終わりました。

内容は一日目、二日目は、学生と教職員が協力して不法駐車に対する注意や学内清掃等を中心に実施し、百十六名（延べ数）が参加しました。また、新浦安駅までの歩道の清掃（空缶やタバコの吸い殻）を中心に実施した三日目は、体連・文連の課外活動団体の構成員多数が加わり、全員で約百三十名が参加しました。三日間ともこれといったトラブルも発生せず、また、学生も比較的スムーズに指示に従って協力してくれました。反省材料としては、第一に、準備期間が短かったことが挙げられます。それにも関わらず、学友会内の各委員会が協力的だったのが幸いでした。第二に、マリナイーストの住民の方の参加が殆ど無かったので、次回はその辺りに力を入れて行うべきであると思いました。第三には、学生委員の先生方が非常に積極的に協力して下さいました。ただ多少残念だったのは前もって十分な説明が出来なかったこともあり、定められた時間内に協力してもらえなかったケースがあった点です。次回は、来年五月三十日（ゴミゼロの日）を予定し、もっと地域に密着した実施内容を企画し大々的に開催したいと思っております。

盛会だった第七回明海祭

明海大学が浦安キャンパスに設立されて以来開催してきた明海祭も早いもので今年で七回目を数えることとなりました。今回は、「FULL POW ER→FULL COLOURS」（全ての力を注ぎこむこと、様々な色を出すという意味）をテーマに十一月四日から六日までの三日間開催されました。年々、参加団体の数も増え、学園祭実行委員会による企画イベントもより一層パワーアップし内容の充実したものとなりました。

主な催しものとしては、恒例となったミス明海コンテストやテレビ等でなじみの森川美穂のコンサートや電撃ネットワークによるお笑いライブなどがあり大勢の若者達で大いに盛り上がりました。

大学の企画では、講義棟の一角にコーナーを設けて受験生等のための大講義を体験していただくための各模擬授業や、日本人による英語スピーチ部門と外国人による日本語スピーチ部門により構成されたスピーチコンテストなどが行われました。

また地域の方々に参加していただいたフリーマーケットは大変な盛況ぶりでした。

最終日はあいにく雨天となりましたが、各種模擬店や企画等について、学園祭実行委員、留学生を含めた各参加団体の学生達また地域の人々の協力により盛況のうちに今年の明海祭を終えることができました。



「アメリカからのメッセージ」

大野 幹夫

米国の社会は日本の社会と大変に異なります。一口に言って米国は個人主義です。利己主義ではありません。個人の自由意思を認める社会です。そのことは能力がある人間は社会でのびることができますが、駄目な人間は社会から見放されてしまいます。歴史的なものを含めて黒人は社会の最下層で苦しんでいます。同様に白人でも、東洋人でも落ちこぼれば見捨てられるというのがアメリカ式デモクラシーです。

一方、個人の意思尊重という方式は偉大な科学的発達や企業発展につながっています。ノーベル賞学者は日本人の五十倍以上（人口比）います。従ってアメリカ社会は悪いことだけでもないのです。勉強のやり方も小学生から個人差を大きく認め、同じクラスの中でも違う教科書を使います。飛び級など、どのクラスにも一人や二人はいます。高校のうちにコースをすでに取っているくらいでないと一流大学にはすぐに入れません。日本式の大学入学試験がない米国では、高校のときの成績が大きくものをいいます。しかし本人が勉強しない場合、しなくても済んでしまうところに国定教科書を使わない米国の弱さがあり、最近の調査では半分の高校生が、太陽が銀河系にあることを知らないのです。

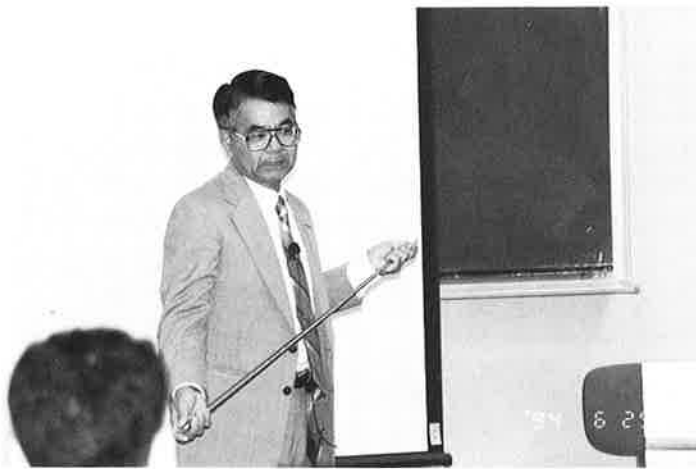
毎日、全米で十万人の学生が銃を学校に持ち込みます。四十人が傷を受け、二百六十人の先生が肉体的に攻撃を受けています。この数字は一年間ではなく毎日です。毎日十六万人の学生がそのため恐ろしくて学校に行けないのです。日本からは想像することができません。武器だけではありません。性病がひどく広まり、大都市はどこでもこの四〜五年、多くの予算を使い、性教育を中学、高校で厳しく始めました。本物のコンドームを学生に渡しその使い方を教えるのです。大変な政治問題になりましたが結局子女の命にかえられないということと父兄の賛同を得られるようになり、

フィラデルフィアでもニューヨークでも、多分どの大都市でも始めるようになりました。マスコミが騒いでいるHIVは実は全米で1%くらいであり、感染すれば致命的ではあるものの、少なくとも防ぎやすい点もあるのです。もっと恐ろしいものはパピローマやハーピースシンプレックスで、実に20%近くすでに感染していると思われています。

フィラデルフィア（私が住んでいた所で、娘が成長したため、中学、高校の実際的な教育に関与した所）の標語は「セックスをする時は必ずコンドームを使いましょう」です。市当局だけでなく、州政府も連邦政府もテレビを使い激しく教育しています。日本では有名女優がテレビでこんなことを言うのでしょうか。アメリカですらこんなことができるようになったのはつい四〜五年前で新しいことなのです。

皆さんが米国に来る時には、こんな荒れた社会に来るのだということをつくづく知った上で来なければなりません。学校外の犯罪についてはここでは述べませんが、ニューヨークでは一日六人、フィラデルフィアでは一日二人ずつ殺されています。

米国に来た時要求されるのは三Cです。①チェンジ ②クリエイティビティ ③コミュニケーションで、この三つとも日本人は教育を受けていません。日本ではこの三つをしないように教育している



のです。不変の「傾向と対策」を勉強し、国定教科書で決まった知識や考え方以外を否定し、質問しない「沈黙は金」の鉄則を守っているのです。大学受験制度がいかに米国的制度に相反しているかわかると思っています。私は日本の将来について、この大学受験制度をやめなければすぐに高度技術社会に追いついていけないように思われるのです。

私の専門分野のバイオテクノロジーやコンピュータのソフトウェアは米国にすでに五、十年くらい遅れています。日本の得意とする「物真似技術」では将来やっけていきません。米国はひどい社会と書きましたが、この点は逆に米国は圧倒的な有利さをもってしています。日本は資源がないのだから、頭脳で生きなければならぬのに、創造性をつぶす努力を政府は大学受験でやっているのです。創造性を作りだすための条件は

- ① 観察
- ② 保温（考え方を心に止め置くこと）
- ③ 直観
- ④ 感情
- ⑤ 刺激が全部なくてはなりません。こういう条件を持った上にごく少数の優れた人は次の条件をいくつか満たしています。① 将来に対してとても希望的
- ② 変わったことをすることが平気
- ③ 白昼夢をみる、夢想の中に限りなく入れる
- ④ 非常に何にでも興味深い
- ⑤ 独立した考え方をもち
- ⑥ 悪習慣をやめることが可能
- ⑦ いい考え方を実際的に変える能力をもって
- ⑧ 何にでも手をだす



⑨ 新しいことに首を入れ、情報を手に入れる

⑩ 危険を平気でとる

⑪ 新しい経験をしたが

⑫ 物事に凝る

⑬ 常識に従わない。もし日本でこのような若い男女がいたとしたら、この人たちは日本の社会に生きられますか？ お嫁さんに貰い手がないと思えますし、一流会社に入社はできません。つまり日本社会ではだめ人間です。でも、アメリカにはとても多いのです。米国でこういうことを学びとるのは、単に英語を習うよりはるかに大切なことですが、実際には時間や世間の制約のためここまでいきません。しかし米国留学ということは、異なる文化の中で異なる考えで通用するということを習うことだと思えます。米国社会の欠点を十分に知った上で、日本にない多くのことを習うべきだと思えます。とても難しい注文は、日本の良さを同時に維持することです。これができないと外国カブレのいやな日本人になってしまいます。日本で生きられない「元日本人」をたくさん米国内でみておられます。これだけはくぐれも忘れないように米国留学を最大に生かすよう心がけてください。

最後に我が家はオープンハウスです。誰でも泊られますし、歓迎します。しかし我々夫婦は、女中付き、運転手付き無料ホテルを経営しているわけではありません。生活負担は当たり前と考えてください。私自身、掃除、洗濯、草刈り、車洗い、買物等、妻に命令されて全部するのです。交友を目的とする短期間ホームステイと考えてください。それ以外の人は普通のホテルに行ってください。米国の平均所得の平均生活の内側はホテルのロビーからは見えません。ワシントンDCとニューヨークが日帰り可能距離です。フィラデルフィアの郊外とを考えてください。カムデン・コミュニティ・カレッジが歩ける所にあります。

自宅住所 33 Mercer Drive, Sicklerville, NJ 08081

TEL 1-609-232-0835

FAX 1-609-232-11074

明海大学同窓会役員との懇談会開催

十月十五日の役員会に引き続き、教育後援会と同窓会との第一回の懇談会が開催されました。白石会長の挨拶に続き、北原同窓会評議員から挨拶および出席者の紹介、同窓会事業の概要説明等が行われました。同窓会側から、今後教育後援会の事業内容を参考にして同窓会事業の充実を図りたいとの抱負が述べられました。また、



教育後援会と同窓会の懇談会を定期的に開催することや学生への援助方法の多様化を考慮し幅広い体制作りのために協力することなどを合意し懇談会を終了しました。なお、懇談会終了後、浦安市内において教育後援会役員と同窓会役員との懇親会が開催され、お互いの親睦を深めることができました。



東北地区懇談会開催

東北地区懇談会を次のとおり開催します

日時 平成六年十一月二十日(日)

午後一時～午後五時

場所 福島市ホテル・辰巳屋

一、議事

(一) 大学現況報告

(二) 教育後援会報告

(三) 質疑応答

(四) 各学科教員との面談
(前期成績他)

二、懇親会

三、出席予定者

学長始め各学科教員

教務課・学生課・第二部事務課・

企画広報課・教育後援会役員 十

七名の予定です。尚、会の詳細に

ついては次号で報告します。

県別出席者

県名	学生数	出席数
宮城県	28	5
青森県	31	3
岩手県	34	6
山形県	23	7
福島県	77	21
秋田県	9	0
合計	202	42

東北地区学部・学科別学生数及び出席者

H 6. 11. 10 現在

学部	学科	1年		2年		3年		4年		合計		
		人数	出席	人数	出席	人数	出席	人数	出席	人数	出席	
第一部	外国語学部	日本語学科	-	-	2	1	1	1	-	-	3	2
		英米語学科	6	2	6	2	4	2	5	1	21	7
		中国語学科	2	1	3	1	-	-	2	0	7	2
	経済学部	経済学科	8	3	9	0	15	2	15	4	47	9
不動産学部	不動産学科	13	5	4	1	3	2	-	-	20	8	
第二部	外国語学部	日本語学科	5	0	1	0	1	1	1	0	8	1
		英米語学科	12	2	8	0	10	2	7	0	37	4
		中国語学科	2	0	2	1	2	0	-	-	6	1
	経済学部	経済学科	12	1	13	2	6	1	12	1	43	5
不動産学部	不動産学科	4	1	4	1	2	1	-	-	10	3	
合計		64	15	52	9	44	12	42	6	202	42	

編集後記

残り少ない日々となりました。皆様方にはいかがお過ごしでしょうか。今年を振り返ってみますととも事業内容の充実した一年であったと、我々一同大変喜んでおります。来年はさらに沢山の事業が出来る事を祈っております。これからも皆様のご協力をよろしくお願い致します。